愛知民報

2020年
4月5日
第2486号

発行所 愛知民報社
〒460-0007　名古屋市中区新栄三丁目12番25号
愛知あかつき会館内
☎(052) 251-2925　FAX(052) 261-6063
定価　月　400円　郵送料168円　1部　100円
毎週日曜日発行（第5日曜日は休刊）
1966年7月31日第三種郵便物認可

週刊

愛知民報を
周りの人に

コロナの苦難軽減
碧南3氏、扶桑2氏全力

日本共産党

愛知の日本共産党は、新型コロナウイルスによる県民の苦難の軽減に取り組みつつ、目前に迫った碧南市議選と扶桑町議選の勝利をめざし全力をあげています。同党は1月の第28回大会で、地方議員数第1党を奪回するという目標を決定しました。大会後初の県内選挙となった2月の弥富市議選で同党は現職と新人の交代を成功させ、現有議席を確保。碧南市議選と扶桑町議選は前進の流れを発展させる選挙です。

碧南市議選

12日告示
19日投票

日本共産党碧南市議団の山口はるみ、岡本守正、磯貝明彦の3市議らは、新型コロナウイルスから市民を守る活動に全力投球しつつ、12日告示・19日投票の碧南市議選での全員勝利をめざし総力をあげています。

コロナ対策推進

3議員は、市にたいし市民病院の検査・治療体制の強化、マスク・消毒液の確保、休校中の児童援助、中小企業への営業支援を要請。3月27日には、碧南商工会議所を訪問しコロナの影響で苦境にある中小企業への援助について懇談しています。

市民病院守る

市議選の最大争点は、昨秋に厚生労働省が発表した碧南市民病院をふくむ公立・公的病院の再編統合リストにたいする態度。

日本共産党市議団は再編統合リストの白紙撤回と碧南市民病院の存続・充実を求める意見書を3月議会に提案。市民団体も同趣旨の請願を同議会に提出しました。

しかし、市長与党の自民系会派と公明党は、意見書と請願に反対。請願を不採択にしました。市民から「コロナで大変なとき、病院を減らせとはとんでもない。共産党がんばれ」と期待の声が上がっています。

日本共産党の3市議は、「くるくるバス」の運行回数増、高齢者タクシー券支給、18歳への医療費無料拡大、地域産業振興、防災・減災対策の強化などの政策を掲げて支持を訴えています。

山口はるみ候補

岡本守正候補

磯貝明彦候補

扶桑町議選

21日告示
26日投票

21日告示、26日投開票で扶桑町議選（定数16）がおこなわれます。日本共産党から4期目をめざす現職の高木よしみち氏と、小林あきら議員からバトンタッチする新人の荒木こうぞう氏が立候補を予定しています。

高木、荒木両氏は3月3日、新型コロナウイルスに町民の不安が広がるなかで町長に緊急に相談窓口の設置などを申し入れました。

同党議員団の実績は抜群。すべての保育園、小・中学校へのエアコン設置を議会で要求し実現。児童館の設置や中学卒業までの子どもの医療費無料化が実現しました。

党議員団は「名鉄扶桑駅にエレベーター設置を」という住民の声を議会で取り上げ、設置させました。「買い物や通院などに便利な巡回バスを走らせてほしい」との住民の声をとりあげ、繰り返し要求しました。町は昨年アンケートを実施。今年3月議会での高木議員の実現を求める追及に当局は「方向性を示す」と答弁しています。

高木、荒木両氏は、議案提案権を持つ現有2議席を確保し、巡回バス実現、国民健康保険税や介護保険料引き下げ、18歳までの子ども医療費無料化、第2子以降の学校給食費無料化など、くらし優先の政策を訴えて支持を呼びかけています。

高木よしみち候補

荒木こうぞう候補

新年度政府予算可決成立

新型コロナ対策費ゼロ
「感染防止に財政支援を」

もとむら伸子衆院議員
国会報告で自公糾弾

2020年度の政府予算が3月27日、参院本会議で自民、公明の賛成多数で成立しました。同予算には新型コロナウイルス対策費用が1円も盛り込まれていませんでした。また、昨年10月の消費税増税による景気冷え込みの対策がなく、与党は日本共産党など野党が求めた抜本修正をおこないませんでした。

日本共産党の、もとむら伸子衆院議員は3月29日名古屋市内で国会報告し、新型コロナ対策費用ゼロの新年度予算を強行成立させた与党を糾弾。「マイナンバーカードを普及する事業費や内閣府のカジノ管理委員会運営費といった不要不急の予算を緊急を要する新型コロナウイルス対策に振り向けるべき。感染拡大防止を徹底するためにも思い切った財政措置をとるべき」と述べました。

また、「収入を絶たれている人たちへの賃金補償や損失補てん、社会保険料減免をすぐおこない、消費税5％減税で冷え込んだ消費を温めるべき」と緊急の経済対策を強調しました。

厚生労働省が進めようとしている全国424の公立・公的病院を名指しての「再編・統合」では、「感染症のまん延や南海トラフ巨大地震など災害に見舞われれば、医療が足りなくなるのは明らか。国は議論をしないで病床を減らそうとしている」と批判しました。

国会報告する、もとむら伸子衆院議員＝3月29日、名古屋市内